

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教 科	科 目	単位数	年次・コース				教 科 担 任				
国 語	国語総合 (現代文編)	2	1年次				坂井 淳 ・ 三鹿 裕明				
使用教科書	改訂版 国語総合 現代文編 (数研出版)				使用副教材	改訂版 ほんものの力がつく現代文練習帳 このは (いいずな書店) 論理力ワークノート (第一学習社) 新版五訂新訂総合国語便覧 (第一学習社)					
科 目 の 目 標						道徳教育のねらい					
国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。						人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道徳的心情や道徳的判断力を養う。					
学習活動内容		市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・ 自己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力
1	現代文 随 筆	○		○			○				
2	現代文 評 論	○	◎	○							
3	現代文 小 説	○	○	○		◎	◎				
4	現代文 詩 歌	○		○			○		○		○
5	現代文 表 現	○	○	○	◎	○	○		◎		○
6	現代文 文学史	○		○				○			
7	現代文 語 彙	○		○				○			
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力		書く能力		読む能力		知識・理解			
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、また、的確に聞き取ったり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。		相手や目的、意図に応じた適切な文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。		文章を的確に読み取ったり目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。		伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		活動の観察① (授業に対する取り組みの姿勢全般)	活動の観察② (グループ学習時の発表内容や人の意見を聞く態度)	記述の確認及び分析(ノート、ワークシート、原稿用紙等)	定期考査に対する取り組み姿勢と結果	小テストや課題確認テストに対する取り組み姿勢と結果	週末課題や長期休業中の課題に対する取り組み姿勢と成果				
	関心・意欲・態度	◎	○		○	○	○				
	話す・聞く能力		◎								
	書く能力				◎						
	読む能力				◎						
	知識・理解					◎	◎	◎			

授業計画

授 業 計 画						実 施 状 況	
	月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4	オリエンテーション 随想	1 一年間の学習の概要を知る。 2 文章の構成や展開を確かめ、筆者の意図をとらえる。	授業について 『知の体力』	1 2		
	5	評論	4 文章の内容をふまえて東西の文化の違いを読み取りまとめる。	『水の東西』	4		
		論理力ワークノート(1)	3 文中の「相手意識・目的意識」「言い換え・要約」「問い(問題意識)と答え」をとらえる。	第一章『読み書きの基本スキル』	3		
	6	小説	6 人物・情景・心情を読み味わいものの感じ方を育てる。	『羅生門』	6		
		前期中間考査 詩	1 3 詩の構成やリズム感を味わい表現上の特色を理解する。	『六月』	1		
	7			『I was born』	2		
		論理力ワークノート(2)	4 「具体・抽象(一般)」「対比・類比」「原因・結果」「グラフ・表」をとらえる。	第二『事実系文章の読み書き』	4		
	8						
		評論	6 文章の構成や展開を確かめ物事の多角的解釈をとらえ評価する。	『「わらしべ長者」の経済学』	6		
	9	前期期末考査	1				
		計	31				
後 期	10	評論	5 文章の内容を要約したり叙述する。	『時間と自由の関係について』	5		
		随想	3 文章の中の心情を表現に即して読み味わう。	『匂いは、いつも言葉の奥の何かを』	3		
	11	論理力ワークノート(3)	4 「主張・理由・具体例・隠れた前提」「譲歩表現」「演繹・帰納」をとらえる。	第3章『論証系文章の読み書き』	4		
		評論	5 文章の内容を具体例と抽象的見解を的確にとらえながら読み取りまとめて表現する。	『「間」の感覚』	5		
		詩歌	3 短歌や俳句の特色に気づき日本の伝統的言語文化に関心を広げる。	『短歌』 『俳句』	2 1		
	12	後期中間考査	1				
	1	小説	5 文章上に表現された人物の心情を読み取り、生と死についての考えを深める。	『城の崎にて』	5		
	2	評論	8 筆者の主張を整理し医学の発達と死の問題の複雑な関わりを考える。 文中の抽象的な語句の意味を正確に読み取り、言語が個人や社会の中ではたりてゐる役割について理解を深める。	『命は誰のものなのか』 『記録すること、表現すること』	3 5		
	3	論理力ワークノート(4)	4 「事実系文章・論証系文章」の読み書きおよび総合的な文章表現力のまとめ。	第4章『演習問題』 第5章『大学入学共通テスト』への力試し	2 2		
		後期期末考査	1				
		計	39				

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教科		科目	単位数	年次・コース		教科担任						
国語		国語総合 (古典編)	2	1 年次		坂井淳・三鹿裕明						
使用教科書		改訂版 国語総合 古典編 (数研出版)			使用副教材		改訂版 国語総合 古典編 準拠ワーク (数研出版) 新版五訂 新訂国語総合便覧 (第一学習社) 基礎から解釈へ 新しい古典文法 四訂新版 (桐原書店) 基礎から解釈へ 新しい古典文法演習ノート 四訂新版 (桐原書店) 出る順で学ぶ 頻出古典単語400改訂版 (Z会) 必携 句法と語彙と一緒に学ぶ 新明説漢文 (尚文出版) 必携 句法と語彙の定着を図る 新明説漢文ノート 修訂版 (尚文出版)					
科目の目標							道徳教育のねらい					
国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。							人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道徳的心情や道徳的判断力を養う。					
学習活動内容			市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)									
			1 基礎力	2 思考力	3 主体的 学習力	4 傾聴力	5 自己理解・ 自己管理能力	6 他者 理解力	7 計画 実行力	8 発信・ 表現力	9 ストレス コントロール力	10 実践力
1	古文説話		○		○							
9	古文随筆		○		○							
2	古文物語		○		○							
3	古文日記		○		○					○		
4	古文軍記		○		○	○						
5	古文和歌		○		○			○				
6	古文評論		○	○	○							
7	古文文法		○		○					○		○
8	古文文学史		○		○					○		
9	漢文小話		○		○						○	
10	漢文史伝		○		○							
11	漢文小説		○	○	○				○			
12	漢文思想		○		○		◎	○			○	
13	漢文文章		○		○							
14	漢文漢詩		○		○	○		○				
15	漢文句法		○		○				○		○	
16	漢文重要語		○		○				○			
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力		読む能力			知識・理解				
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、また、的確に聞き取ったり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。		文章を的確に読み取ったり目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。			伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。				
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。											
		活動の観察① (授業に対する取り組みの姿勢全般)	活動の観察② (グループ学習時の発表内容や人の意見を聞く態度)	記述の確認及び分析(ノート、ワークシート、原稿用紙等)	定期考査に対する取り組み姿勢と結果	小テストや課題確認テストに対する取り組み姿勢と結果	週末課題や長期休業中の課題に対する取り組み姿勢と成果					
	関心・意欲・態度	◎	○		○	○	○					
	話す・聞く能力		◎									
	書く能力				◎							
	読む能力				◎							
	知識・理解					◎	◎	◎				

授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
	月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前 期	4	○古文 文語文法Ⅰ 古文を学ぶための基礎的知識事項と技術（１１）	古文を読解するために必要な基礎的な知識事項とそれを活用する技術について学ぶ。	古文の仮名遣い（１） 文節・単語と品詞（１） 用言の活用（動詞・形容詞・形容動詞）（８） 演習と単元テスト（１）	11	
	5					
	6	◎前期中間考査（１）			1	12
		○古文 説話 「宇治拾遺物語」児のそら寝（３） 「沙石集」孝孫（３）	親しみやすい説話作品に触れ、古文の面白さを味わう。また、学んだ文法事項を実際の文章中で確認することで知識の定着を図る。	音読（１） 用言の確認（１） 現代語訳と内容理解（３） 文学史（１）	6	
		○漢文 入門 漢文を学ぶための基礎的知識事項と技術（５）	漢文を読解するために必要な基本的な知識事項とそれを活用する技術について学ぶ。	漢文の構造と６文型（１） 訓読と書き下し文（１） 置き字・再読文字・返読文字（２） 単元テスト（１）	5	
		○漢文 故事 「戦国策」漁夫之利（３） 「戦国策」狐借虎威（３）	漢文の基礎的知識と技術を用いて故事を読み、故事成語の意味や漢文の構造について学ぶ。	訓読と書き下し文（３） 現代語訳と内容理解（３）	6	
		◎前期期末考査（１）			1	18
		○文語文法Ⅱ 助動詞（１１）	古文を正確に読解するために必要な助動詞を理解し、それを活用する技術について学ぶ。	付属語および助動詞の意味と接続について（１） 助動詞の種類とそれぞれの働きについて（８） 演習と単元テスト（２）	11	
後 期		○古文 随筆「徒然草」 つれづれなるままに（２） 丹波に出雲といふ所あり（３）	日本を代表する古典随筆の名文を読み、現代との違いを確認しながらその世界観を味わう。また、文法事項を実際の文章中で確認しながら基本的知識の定着を図る。	音読と暗唱（１） 用言と助動詞の確認（１） 現代語訳と内容理解（３）	5	
		◎後期中間考査（１）			1	17
		○漢文 史伝 「十八史略」管鮑之交（２） 「史記」晏子之御（３）	史伝に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。	訓読と書き下し文（２） 現代語訳と内容理解（３）	5	
		○古文 歌物語「伊勢物語」 芥川（３） 東下り（３）	古典の物語文学を、人物・情景・心情などの表現に即して味わう。また、和歌の基本となる修辞法について学ぶ。	和歌と修辞法（１） 用言と助動詞の確認（１） 敬語の理解（１） 現代語訳と内容理解（３）	6	
		○古文 日記「土佐日記」 門出（３） 忘れ貝（３）	日記文学への興味関心を広げ、表現の特色を理解し、古典の語句に関する知識を広げる。	音読と暗唱（１） 助動詞の確認（１） 現代語訳と内容理解（４）	6	
		◎後期期末考査（１）			1	18
		○唐詩 絶句（２） 律詩（３）	中古・中世の日本文学に多大なる影響を与えた漢詩の近体詩の基本を学び、その韻律や独特の世界観を味わう。	唐詩のきまり（１） 訓読と書き下し文（２） 鑑賞と内容理解（２）	5	5

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教 科	科 目	単位数	年次・コース			教 科 担 任					
地理歴史	世界史A	2	1年次			吉田 崇					
使用教科書	山川出版社 改訂版 世界の歴史 世界史A			使用副教材	なし						
科 目 の 目 標						道徳教育のねらい					
近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。						歴史的現象を通じ、道徳心を養い、さらに道徳的実践力育む。					
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・自 己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力
1	世界史へのいざない	○	○	○	○		○		○		
2	序 人類の歴史の始まり	○	○	○							
	第1部 世界の一体化と日本	○	○	○					○		○
3	第1章 世界の諸文明	○	○	○					○		○
4	第2章 世界の一体化の始まり	○	○	○					○		○
8	第3章 近代の世界	○	○	○					○		○
	第2部 地球社会と日本										
6	第1章 現代の始まりと帝国主義	○	○	○					○		○
7	第2章 二つの世界大戦	○	○	○					○		○
8	第3章 平和と冷戦	○	○	○					○		○
9	第4章 現代世界と日本	○	○	○					○		○
10	グループワーク		○	○	◎	○	◎		◎	○	○
11	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
12	考查	○	○					○	◎		
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断			技能・表現			知識・理解			
	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と意識を高め、国際社会に主体的に生きる一員としての姿勢を培う。	近現代史を中心とする世界の歴史から、因果関係や課題を発見し、多角的・客観的に考察し、中立的な判断力とそれを客観的に表現する力を養う。			近現代史を中心とする世界の歴史に関し、情報の収集・分析・精査する力を養い、それを活用する技能を身につける。			近現代史を中心とする世界の歴史について、基礎的知識の定着を図り、国際関係を理解し、身につける。			
評価の方法	小テストや課題、ノートや授業中の発表・発言、討議などに取り組む姿勢から、意欲的に取り組んだかを評価する。	定期考査や小テスト、課題などにより、因果関係や課題を発見し、多角的・客観的に考察し、中立的な判断力とそれを客観的に表現できるかどうかを評価する。			定期考査や小テスト、課題などにより、情報の収集・分析・精査する力を活用できるかどうかを評価する。			定期考査や小テスト、課題などにより、基本的な事柄を理解し、知識を身に付けているかどうかを評価する。			

世界史A 授業計画

学 習 指 導 計 画					実 施 状 況	
	月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前 期	4月	世界史へのいざない(1.5)	・身近なものや日本史との関連から世界史に興味を持たせる。	①自然環境と歴史・②日本列島の中の世界史(1.5)		
		序 人類の歴史の始まり(0.5)	・文明の発展過程を理解させる。	人類の進化・文明の誕生(0.5)		
		第1部 世界の一体化と日本				
	5月	第1章 世界の諸文明(6.5)	・各地域の歴史の概要を理解し、各文明の特徴を自然環境や宗教などと関連付けて考察させる。	1東アジア世界Ⅰ・2東アジア世界Ⅱ・3東アジア世界Ⅲ(1) 4南アジア世界・5東南アジア世界(1) 6西アジア世界Ⅰ・7西アジア世界Ⅱ・8西アジア世界Ⅲ(1) 9古代地中海世界・10ヨーロッパ世界Ⅰ(2) 11ヨーロッパ世界Ⅱ(1.5)		
		第2章 世界の一体化の始まり(10.5)	・世界の一体化が進んだ背景と過程を理解し、その影響を考察させる。	12 16世紀の世界と一体化の始まり(0.5) 13 明代の東アジア・14清代の東アジア(1) 15 サファヴィー朝とムガル帝国・16オスマン帝国(1)		
	6月	前期中間考査(1)	・様々な資料をもとに、当時の人々の世界観や価値観を読み取れるようにする。	17 大航海時代とアメリカ征服(1) 18 新しい時代の始まりとルネサンス(1) 19 宗教改革(1) 20 スペインの時代からオランダの時代へ(1) 21 絶対王政と議会王政(2) 22 東ヨーロッパの専制(1) 23 大西洋経済(1) 24 啓蒙とアメリカ独立(1) 25 フランス革命(1.5) 26 ナポレオンとその帝国(1) 27 イギリス産業革命(1) 28 ウィーン体制と自由主義改革(1) 29 1848年革命とイギリス・フランス(1)		
	7月			30 クリミア戦争とオーストリア・ロシア(1) 31 イタリアの統一とドイツの統一(1.5) 32 アメリカ合衆国の発展とカナダ(1) 33 ラテンアメリカと世界資本主義(1) 34 19世紀の西アジア(1) 35 南アジア・東南アジアの植民地化(1) 36 東アジアの開港と変動(1) 37 東アジアの近代化の試み(1)		
	8月	第3章 近代の世界(15)	・ヨーロッパの近代化の背景と過程を理解し、その影響について考察させる。			
			・国民主義や自由主義の成立過程と特徴を複数の視点から理解しまとめさせる。			
	9月	前期期末考査(1)	・地図を活用し、どのような地域で植民地化が進んだかを説明できるようにさせる。			
			・日本の近代化が、どのような背景の中で進んだのかを世界史と関連付けて考察させる。			
後	10月	第2部 地球社会と日本				
		第1章 現代の始まりと帝国主義(6.5)	・帝国主義の成立背景を経済的側面から理解し、その影響を考察させる。	38 資本主義社会の成熟(0.5) 39 世界分割と一体化の進展(1) 40 帝国主義の国際対立(2) 41 植民地・従属国での民衆の抵抗(1) 42 日露戦争と韓国併合(1) 43 辛亥革命(1) 44 第一次世界大戦(1.5) 45 ロシア革命(1.5) 46 ヴェルサイユ体制とワシントン体制(1.5) 47 1920年代のアメリカとヨーロッパ(1) 48 アジア諸地域の抵抗と独立(1) 49 東アジアの民族運動(1) 50 世界恐慌(1.5)		
	11月	第2章 二つの世界大戦(14.5)	・二つの世界大戦が起こった背景を理解し、影響を考察させる。			
		後期中間考査(1)	・地図や資料をもとに、当時の東アジア情勢を理解させ、日本の外交政策の変遷について考察させる。			
後	12月					

期				51 ファシズムの台頭(1.5)			期
				52 第二次世界大戦前夜の世界(1)			
				53 満州事変と日中戦争(1)			
				54 第二次世界大戦Ⅰ(1)			
				55 第二次世界大戦Ⅱ(1)			
	1月	第3章 平和と冷戦(4)	・冷戦について理解し、世界大戦後の世界情勢を地図などを用いて説明できるようにする。	56 冷戦の開始(1.5)			
				57 冷戦の激化と核戦争の危機(1)			
	2月	第4章 現代世界と日本(7)	・冷戦の終結とグローバル化の関係について理解させる。	58 第三世界の出現(1.5)			
				59 米・ソの動揺と多極化する世界(1)			
	3月	後期期末考査(1)	・現代世界の課題を見出し、解決策について考察し、説明できるようにする。	60 冷戦の終結・61 グローバル化とアメリカ(1)			
				62 EUの拡充とロシア、アフリカ(1)			
				63 中東情勢とイスラーム主義運動(1)			
				64 アジアの経済発展・65 中国の台頭と多極化(1.5)			
				66 地球社会の今後と私たち・主題学習(1.5)			

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教 科		科 目		単位数	年次・コース		教 科 担 任								
数学		数学ⅠA		5	1 年次		奥田 章二・今井 香恵 ・照井 広志								
使用教科書		東京書籍 「数学Ⅰ S t a n d a r d」 東京書籍 「数学A S t a n d a r d」			使用副教材		東京書籍「Standard Buddy WIDE 数学Ⅰ+A 演習ノート」 数研出版「チャート式改訂版基礎からの数学Ⅰ+A」								
科 目 の 目 標							道徳教育のねらい								
「数と式」、「集合と論証」、「2次関数」、「図形と計量」、「データの分析」、「場合の数と確率」、「整数の性質」、「図形の性質」について理解させ基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。2クラス3展開の少人数編成の授業により、きめ細かな指導を行う。日常の課題、単元テスト等の取り組みを徹底し、基礎基本の定着を図ると共に、応用問題に取り組む姿勢を養う。							数学を活用して考えたり判断したりしようとする態度や、工夫して生活や学習をしようとする態度を育てることで、また、生徒が事象を数理的に考察し、道筋を立てて考え、表現をする能力を高めることで、道徳的判断力を養う。								
学習活動内容				市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）											
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
				基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・ 自己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力		
1	式の計算			◎	○	○	○					○			
2	実数			○	○	○	○					○			
3	1次不等式			○	○	○	○					○			
4	2次関数とグラフ			◎	○	○	◎					◎			
5	2次方程式と2次不等式			○	◎	○	○					○			
6	集合			○	◎	○	○					○			
7	命題と論証			○	○	○	○					◎			
8	集合と場合の数			◎	○	○	○					○			
9	確率とその性質			◎	○	○	○					○			
10	いろいろな確率			○	◎	○	○					○			
11	三角形と比			○	○	○	◎					○			
12	円の性質			○	○	○	○					○			
13	作図			○	○	○	◎					◎			
14	空間図形			○	○	○	◎					○			
15	鋭角の三角比			○	○	◎	○					○			
16	三角比の拡張			○	◎	○	○					○			
17	三角形への応用			○	○	◎	○					○			
18	データの整理と分析			◎	○	○	○					○			
19	データの相関			○	○	○	○					○		◎	
20	約数と倍数			○	○	○	○					○			
21	ユークリッドの互除法と不定方程式			○	◎	○	○					○	○		
22	整数の性質の活用			○	◎	○	○					○			
23	グループワーク				○	○	○	○	◎			◎	○	○	
24	課題学習				○	○	○	○	◎			◎	○	○	
25	課題提出			○	○	◎		○		○			◎	○	
26	考査			○	○						○	◎			
評価の観点		関心・意欲・態度		数学的な見方や考え方			数学的な技能			知識・理解					
		数学的活動を通して、各単元における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。		数学的活動を通して、各単元における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考察し、表現できる。			数学的活動を通して、各単元において、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につけ、的確に問題を解決できる。			数学的活動を通して、各単元における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。					
評価の方法		次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。													
			授業での取組		課題への取組		定期考査		単元テスト		課題確認テスト		その他の資料		
		関心・意欲・態度		○		◎						◎		○	
		数学的な見方や考え方		◎		○		◎		○		○		○	
		数学的な技能		◎		○		◎		○		○		◎	
知識・理解		◎		○		◎		◎		○		○			

数学ⅠA 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
	月 (時 数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前期	4 5	数学Ⅰ 第1章 数と式 5月中旬に単元テスト	整式や実数など中学で学んできた内容を整理し、高等学校の数学の基礎となる知識および計算力を習得する。	第1節 式の計算（8） 第2節 実数（5） 第3節 1次不等式（6）	21	
	6	数学Ⅰ 第3章 2次関数 6月初旬に前期中間考査	中学校における関数の学習を踏まえ、一般の2次関数 $y=ax^2+bx+c$ およびそのグラフの性質について理解し、グラフを書くことができるようにする。また、2次関数のグラフとx軸との共有点について考察したり、2次不等式の解法を理解することができるように図を用いて学び、グラフや図を活用することのよさを認識する。	第1節 2次関数とグラフ（13） 第2節 2次方程式と2次不等式（13）	26	
	7	7月初旬に単元テスト				
	8	数学Ⅰ 第2章 集合と論証 8月夏休み明け課題確認テスト	集合と論理を学ぶことで、数学の諸概念を多面的、統合的に見ることで、そして論理的に考える技能を身につけ、後の学習において、より厳密に論理を進め、新たな知識を習得できるようにする。	第1節 集合（2.5） 第2節 命題と論証（4.5）	7	
	9	数学A 第1章 場合の数と確率 9月初旬前期期末考査 (10月初旬に単元テスト)	集合は有限集合のみを取り扱い、場合の数を求めるときはもれなく重複なく数えあげる方法やその考え方を身につける。確率の基本性質を学び、これらを利用して確率を求めることができる。応用として、独立な試行や反復試行の確率、条件付き確率を取り上げ、具体的な事象を数学的に考察し、処理する力を伸ばす。	第1節 集合と場合の数（13） 第2節 確率とその基本性質（8） 第3節 いろいろな確率（7）	28	
後期	10 11	数学A 第3章 図形の性質 11月初旬に単元テスト 11月下旬後期中間考査	三角形と比の定理から始め、いろいろな三角形および円に関する定理や性質について学び、図形に対する見方考え方を豊かにする。空間における直線や平面の位置関係を確認し、多面体の基本的な性質について理解する。	第1節 三角形と比（8） 第2節 円の性質（10） 第3節 作図（5） 第4節 空間図形（5）	28	
	12	数学Ⅰ 第4章 図形と計量	中学校で学習した図形の基本的な性質を踏まえ、図形的な内容として三角比を導入し、三角比の意味と基本的な性質を理解する。また、三角比を拡張して、平面図形や空間図形における線分の長さや角の大きさ等の計量ができることに加えて、三角比を利用することのできるよさを実感できるようにする。	第1節 鋭角の三角比（6） 第2節 三角比の拡張（5） 第3節 三角形への応用（10）	21	
	1	数学Ⅰ 第5章 データの分析 1月冬休み明け課題確認テスト 1月中旬に単元テスト	大量のデータを図や表、数値を用いて適切に整理し、データの様子を把握して、これらを根拠として客観的な問題解決につなげられる能力を育成する。	第1節 データの整理と分析（6） 第2節 データの相関（3）	9	
	2	数学A 第2章 整数の性質 2月下旬後期期末考査	自然数を幅広く取り扱い、最大公約数やユークリッドの互除法を通して一次不定方程式を解くことができるようにする。整数の性質を活用して、n進法や分数の仕組みを理解し事象の考察に活用できるようにする。	第1節 約数と倍数（8） 第2節 ユークリッドの互除法 と不定方程式（8） 第3節 整数の性質の活用（5）	21	
	3	数学Ⅰ・数学Aのまとめおよび課題学習	数学Ⅰ・数学Aの復習を行い、次年度の学習へ円滑に移行できるよう発展的内容を取り扱う。	まとめ（14）	14	

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教 科	科 目	単位数	年次・コース				教 科 担 任						
理科	物理基礎	2	1 年次				藤井隆徳・藤島 譲・小松祥秀						
使用教科書	数研出版「改訂版 物理基礎」				使用副教材		数研出版「リードLightノート物理基礎」						
科 目 の 目 標							道徳教育のねらい						
日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。							科学技術の功罪等などにも折りに触れながら科学技術を正しく利用出来る資質を身につける。						
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理能力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力		
1	直線運動の世界	○			○	○				○	○		
2	力と運動の法則	○	○	○	○	○				○	○		
4	日常に潜む力	○	○		○	○				○	○		
5	仕事とエネルギー	○	○		○	○			○	○	○		
9	熱	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
10	波	○		○	○	○	○	○	○	○	○		
12	電気	○		○	○	○				○	○		
14	エネルギー	○			○	○				○	○		
38	グループワーク	○	○	○	○	○	◎		◎	○	○		
39	考査	○	○					○	◎				
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断			技能・表現		知識・理解					
	物理現象に対して、興味・関心を高め、知的好奇心をもって問題を見だし、主体的に解決する態度を養う。		自らが見付けた課題に対し、目的意識をもち、見通しをもって観察・実験などに取り組む態度を養う。			探究活動を通して、仮説、観察・実験、結果、考察、法則性の導出、発表から物理学的に探究する技能・表現を養う。		観察・実験などを通して得られた結果から、物理的な事象・現象の基本概念や原理・法則などの習った知識・理解を深める。					
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。												
		授業での取組		課題への取組		定期考査		単元テスト		小テスト		その他の資料	
	関心・意欲・態度		○		◎						○		
	思考・判断		◎				○		○				○
	技能・表現		○				○		○				◎
	知識・理解		○		○		◎		◎		○		

物理基礎 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
	月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前 期	4 月 8	物体の運動とエネルギー 34	運動の表し方を理解する。グラフ	直線運動の世界	8	
	5 月 21		や式で運動を分析する。	力と運動の法則	13	
	6 月 22		ベクトルを用いて、力のつり合い		1	
	25	を理解する。運動の3法則について	日常に潜む力	3		
	7 月 33	理解する。落下運動，水平投射，斜	仕事とエネルギー	8		
	8 月 33	方投射について式を使って扱えるよ				
	9 月 34	うになる。		1		
	34	さまざまな物理現象とエネルギー				
	10 月 44	36	熱を定量的に扱える。	熱	10	
後 期	11 月 54	後期中間考査	波の性質を理解する、	波	10	
	55			1		
	12 月 65		電気	10		
	1 月 66			1		
	2 月 70			4		
	3 月 70					

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教 科	科 目	単位数	年次・コース				教 科 担 任				
理科	生物基礎	2	1 年次				鈴木史則・小松祥秀				
使用教科書	数研出版「改訂版 生物基礎」					使用副教材	数研出版「四訂版 リードLightノート生物基礎」				
科 目 の 目 標							道徳教育のねらい				
日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基礎的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。							自然に対する関心を深め、環境を守る心の育成や動物愛護の精神を養う。				
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・自 己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力
1	生物の特徴	○									
2	遺伝子とそのはたらき	○									
3	生物の体内環境	○	○								
4	植生の多様性と分布	○		○					○		
5	生態系とその保全		○	○							
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
19	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
20	考査	○	○					○	◎		
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現			観察・実験の技能			知識・理解			
	個々の生命現象に興味関心を持ち、意欲的に授業に参加できたか。を事象の考察に活用しようとする。	個々の生命現象を把握し、生命の実像を捉えることができたか。			観察や実験を通して得られたデータから、生命現象を適確に捉え、それを表現することができたか。			個々の生命現象を把握する上での基礎となる用語を理解し、表現できる力が身についたか。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業での取組	課題への取組	定期考査	単元テスト	課題確認テスト	その他の資料				
	関心・意欲・態度	○	◎			○					
	思考・判断・表現	◎		○	○		○				
	観察・実験の技能	○		○	○		◎				
	知識・理解	○	○	◎	◎	○					

生物基礎 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
	月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前 期		第1編 生物と遺伝子				
	4 (4)	1章 生物の特徴			13	
	5 (8)	1. 生物の多様性と共通性	生物学を学習する上で重要な視点である生物の多様性と共通性について理解させる。生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを学習する。さらに、酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。	顕微鏡の活用(2)		
	6 (2)	2. エネルギーと代謝		多様な生物の共通点(1)		
		3. 光合成と呼吸		生物の共通性としての細胞(2)		
				エネルギーと代謝(2)		
				代謝にかかわる酵素(2)		
				生体内におけるエネルギー変換(3)		
				ミトコンドリアと葉緑体の起源(1)		
		<前期中間考査>(1)			1	
後 期		2章 遺伝子とそのはたらき			16	
	6 (7)	1. 遺伝情報とDNA	遺伝情報を担う物質であるDNAについて、その構造、および遺伝情報は塩基配列にあることを理解させる。次に転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について学習する。さらに、遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことについて学習する。	DNAの構造(3)		
	7 (4)	2. 遺伝情報の発現		ゲノムと遺伝情報(2)		
	8 (3)	3. 遺伝情報の分配		細胞分裂とDNAの複製(3)		
	9 (3)			遺伝情報の流れ(2)		
				転写(2)		
				翻訳(2)		
				遺伝子の発現と生命現象(2)		
		<前期期末考査>(1)			1	
		第2編 生物の体内環境の維持				
		3章 生物の体内環境			18	
	9 (4)	1. 体液という体内環境	動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境（体内環境）である。この章では体内環境がいかにしてほぼ一定に保たれているのか、また体内ではどのようなしくみがはたらき、どのように調節が行われているのか、循環系、腎臓と肝臓、自律神経系と内分泌系、免疫について学習する。私たち自身のからだにかかわる内容についてできるだけ身近な話題を取り上げながら理解させる。	体内環境の特徴(2)		
	10 (6)	2. 腎臓と肝臓		心臓と血液循環(2)		
	11 (7)	3. 神経とホルモンによる調節		体内環境を調節する器官(2)		
	12 (2)	4. 免疫		自律神経系による調節(2)		
				内分泌による調節(2)		
				自律神経系とホルモンによる協同作業(2)		
				自然免疫(2) 適応免疫(2)		
				免疫とヒト(2)		
		<後期中間考査>(1)			1	
		第3編 生物の多様性と生態系			8	
		4章 植生の多様性と分布				
	12 (4)	1. さまざまな植生	植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて学習する。さらに、地球上にはさまざまなバイオームが見られること、どのようなバイオームが分布するかは主に気温と降水量によって決まることを、世界と日本のバイオームを取り上げて学習する。	植生と生態系(2)		
	1 (4)	2. 植生の遷移		植生の遷移(2)		
	2 (6)	3. 気候とバイオーム		地球上の植生分布(2)		
				陸上のバイオーム(2)		
		5章 生態系とその保全			11	
		1. 生態系	生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。その上で、生態系はそのバランスが保たれていること、人間の活動が生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを、身近な例から地球レベルの環境問題までを取り上げながら学習し、自然環境を保全することが大切であることを理解させる。	生態系でのエネルギーの流れ(2)		
		2. 物質循環とエネルギーの流れ		生態系での物質の循環(3)		
		<学年末考査>(1)			1	
	2 (1)	3. 生態系のバランス		生態系のバランスと保全(3)		
	3 (5)	4. 人間活動と生態系の保全		生物多様性の保全(3)		

平成31年度 市立函館高等学校 シラバス

教 科		科 目		単位数	年次・コース			教 科 担任			
保健体育		体育		2	1 年男子			藤井 守			
使用教科書		現代保健体育（大修館）					使用副教材				
科目の目標								道徳教育のねらい			
健康や体力について合理的に実践し、運動技能を高めるとともに、それらの経験を通して、公正・協力・責任などの態度を育て、強健な心身の発達を促して生涯を通して継続的に運動を実践できる能力と態度を育てる。								集団行動や授業準備、実技において、協力や思いやり、安全指導などを通じて道徳心を育てる。			
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解 自己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信 表現力	ストレス コントロール力	実践力
1	体づくり運動・体力測定	◎				◎					
2	体育理論		◎		◎						
3	ソフトボール（&バレーボール）	○									○
4	選択種目Ⅰ（バレー・ソフト・サッカー）			◎			◎	○	○		○
5	陸上競技（100m幅跳び＋長距離走）	○		○				◎		◎	
6	柔道Ⅰ		○			○	◎		○	○	
7	バスケットボールⅠ	○	○					○			◎
8	選択種目Ⅱ（バド・卓球・器械運動）			○							
9											
10											
11											
12											
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断			技能・表現			知識・理解			
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。			運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防の展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。			選択した運動の技能（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。			
評価の方法	授業の準備・後片付けなどへの協力姿勢、意欲的な取り組み・グループでの協力姿勢を評価	授業における練習の取組方、ワークシートでの評価			各種目における実技テスト、記録・発表会を評価			ペーパーテスト、または口頭試問による評価			

1年男子体育 授業計画

授 業 計 画					実施状況	
	月 (時数)	単元・考査等 (配置時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前期	4・5月	体づくり運動・スポーツテスト (	・授業オリエンテーション、集団行動・集団づくり、補強運動、スポーツテストを実施し自らの体力への理解を深め今後の授業にいかす。	・オリエンテーション (1) ・体づくり運動・スポーツテスト (6)・・・「体ほぐし運動」と「体力を高める運動」を通じて、心と体の状態を把握し仲間とともに運動に親しむための基礎を養う。		
	5月 6月 7月	体育理論 (3)	・運動・スポーツの学び方を学習し、運動をより合理的に実践する資質を養う。	・人間にとって「動く」とは何か ・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ (各1h)		
	5月 6月 8月	ソフトボール (&バレーボール)	・基本技術の練習 (捕球・送球・打撃)と技術向上をはかり、試合形式を通して実践する力を身につける。試合では互いに協力する姿勢を養う。	・基本技術習得のための練習 (3) ・グループ技能を高める練習 (5) ・ゲーム形式 (5)		
	7・8月	選択種目Ⅰ (5)	・球技大会で実施する・「バレー」、「ソフト」「サッカー」から種目を選択し、技術向上、または仲間との連携を高め、工夫した取り組みを実践する。	・球技大会種目の練習 (5)		
	9月 10月	陸上競技 (10)	100m走と走幅跳びから選択し、技術練習を積み重ね記録向上を目指す。 ・また、春に行った体力テストの結果を受け、自らの課題に対して体力の向上を図る取り組みを実施する。	・100m走or走幅跳びの選択 (5) ・体力テストの振り返りの取り組み (5)		
後期	10月 11月 12月	体育理論 (3)	・運動・スポーツの学び方を学習し、運動をより合理的に実践する資質を養う。	・オリンピックと国際理解 ・スポーツと経済 ・ドーピングとスポーツ理論 (各1h)		
	10～12月	武道 (11)	・柔道を実施する。礼法・受け身・寝技・立ち技の習得をめざし、練習を通して基本的な技を身につける。柔道の授業では通常の授業と異なり「礼法」を重んじしっかりとした意識で取り組むことを学ぶ。	・礼法、受け身、寝技などの基本技術習得のための練習 (3) ・立ち技の習得 (5) ・実技テスト (3)		
	12～2月	バスケットボール (12)	・基本技術の練習 (ドリブル・パス・シュート)と技術向上をはかり、試合形式を通して実践する力を身につける。試合では運動量を確保し、互いに協力する姿勢を養う。	・基本技術習得のための練習 (4) ・グループ技能を高める練習 (5) ・ゲーム形式 (3)		
	2～3月	選択種目Ⅲ (6)	・卓球、バドミントンは基礎技能を習得し、シングルス・ダブルスの基本的なルールを理解し試合をできるように練習をする。 ・器械運動はマット運動を実施。規定運動、選択技の練習と発表を通じて技術の習得とそのための工夫や取り組み方を学ぶ	・基本技術習得のための練習 (2) ・シングルス・ダブルスのルール理解 (2) ・ゲーム形式 (2) ・前転、後転などの基本動作 ・倒立、開脚、伸膝などの運動 (2) ・連続技の習得 (2) ・実技テスト (2)		

平成31年度 市立函館高等学校 シラバス

教 科		科 目		単位数		年次・コース				教 科 担任			
保健体育		体育		2		1 年女子				齊藤 正明			
使用教科書		現代保健体育（大修館）						使用副教材					
科目の目標										道徳教育のねらい			
健康や体力について合理的に実践し、運動技能を高めるとともに、それらの経験を通して、公正・協力・責任などの態度を育て、強健な心身の発達を促して生涯を通して継続的に運動を実践できる能力と態度を育てる。										集団行動や授業準備、実技において、協力や思いやり、安全指導などを通じて道徳心を育てる。			
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解 自己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信 表現力	ストレス コントロール力	実践力		
1	体づくり運動・体力測定	◎				◎							
2	体育理論		◎		◎								
3	バレーボール（&ソフトボール）	○									○		
4	選択種目Ⅰ（バレー・ソフト）			◎			◎	○	○		○		
5	陸上競技（100m幅跳び＋長距離走）	○		○				○		○			
6	バスケットボールⅠ	○	○					○			○		
7	ダンスⅠ		○	○		○	◎		○				
8	選択種目Ⅱ（バド・卓球・器械運動）			○									
9													
10													
11													
12													
評価の観点		関心・意欲・態度		思考・判断			技能・表現			知識・理解			
		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。		生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。			運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防の展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。			選択した運動の技能（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。			
評価の方法		授業の準備・後片付けなどへの協力姿勢、意欲的な取組・グループでの協力姿勢を評価		授業における練習の取組方、ワークシートでの評価			各種目における実技テスト、記録・発表会を評価			ペーパーテスト、または口頭試問による評価			

1年女子体育 授業計画

授 業 計 画					実施状況	
	月 (時数)	単元・考査等 (配置時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前期	4・5月	体づくり運動・スポーツテスト (7)	・授業オリエンテーション、集団行動・集団づくり、補強運動、スポーツテストを実施し自らの体力への理解を深め今後の授業にいかす。	・オリエンテーション(1) ・体づくり運動・スポーツテスト(6)・・・「体ほぐし運動」と「体力を高める運動」を通じて、心と体の状態を把握し仲間とともに運動に親しむための基礎を養う。		
	5月 6月 7月	体育理論(3)	・運動・スポーツの学び方を学習し、運動をより合理的に実践する資質を養う。	・人間にとって「動く」とは何か ・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ (各1h)		
	5月 6月 8月	バレーボール(&ソフトボール)	・基本技術の練習(サーブ・パス・スパイク)と技術向上をはかり、試合形式を通して実践する力を身につける。試合では互いに協力する姿勢を養う。	・基本技術習得のための練習(3) ・グループ技能を高める練習(5) ・ゲーム形式(5)		
	7・8月	選択種目Ⅰ(5)	・球技大会で実施する・「バレー」、「ソフト」・「混合バレー」から種目を選択し、技術向上、または仲間との連携を高め、工夫した取り組みを実践する。	・球技大会種目の練習(5)		
	9月 10月	陸上競技(10)	100m走と走幅跳びから選択し、技術練習を積み重ね記録向上を目指す。 ・また、春に行った体力テストの結果を受け、自らの課題に対して体力の向上を図る取り組みを実施する。	・100m走or走幅跳びの選択(5) ・体力テストの振り返りの取り組み(5)		
後期	10月 11月 12月	体育理論(3)	・運動・スポーツの学び方を学習し、運動をより合理的に実践する資質を養う。	・オリンピックと国際理解 ・スポーツと経済 ・ドーピングとスポーツ理論 (各1h)		
	10～12月	バスケットボール(11)	・基本技術の練習(ドリブル・パス・シュート)と技術向上をはかり、試合形式を通して実践する力を身につける。試合では運動量を確保し、互いに協力する姿勢を養う。	・基本技術習得のための練習(4) ・グループ技能を高める練習(5) ・ゲーム形式(3)		
	12～2月	ダンスⅠ(12)	・グループでダンスを練習し発表する。 ・発表会を通して、自分の演技と他の者の演技を比較し互いに評価する。 ・グループ活動での積極的な取り組み、協調性と表現力を養う。	・ダンスの創作活動(10) ・ダンス発表(1) ・振り返り学習(1)		
	2～3月	選択種目Ⅲ(6)	・卓球、バドミントンは基礎技能を習得し、シングルス・ダブルスの基本的なルールを理解し試合をできるように練習をする。 ・器械運動はマット運動を実施。規定運動、選択技の練習と発表を通じて技術の習得とそのための工夫や取り組み方を学ぶ	・基本技術習得のための練習(2) ・シングルス・ダブルスのルール理解(2) ・ゲーム形式(2) ・前転、後転などの基本動作 ・倒立、開脚、伸膝などの運動(2) ・連続技の習得(2) ・実技テスト(2)		

平成31年度 市立函館高等学校 シラバス

教 科		科 目	単位数	年次・コース			教 科 担任					
保健体育		保健	1	1年次			齊藤 正明・藤井守					
使用教科書		現代保健体育（大修館）			使用副教材		現代高等保健体育ノート					
科目の目標							道徳教育のねらい					
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を身につけます。							健康的な生活習慣の確立や交通規範の向上、応急手当の実践から自らの安全だけではなく、他者への思いやりや他者との適切な関わりについて考えさせる。					
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解 自己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信 表現力	ストレス コントロール力	実践力	
1	5	生活習慣病とその予防	○	○	○	○	○					○
2	6	食事と健康	○				○		○			○
3	7	運動と健康	○				○		○			○
4	8	休養・睡眠と健康	○				○		○			○
5	9	喫煙と健康	○	○								○
6	10	飲酒と健康	○	○								○
7	11	薬物乱用と健康	○	○	○					○		○
8	12	現代の感染症	○									○
	13	感染症の予防	○		○				○			○
9	14	性感染症とエイズ	○			○		○				○
10	★前期期末考査											
11	※グループ学習&発表			◎	◎		○	○	○	◎		○
12	15	欲求と適応機制		◎	◎		○	○	○	◎		○
13	16	心身の相関とストレス		◎	◎		○	○	○	◎		○
14	17	ストレスへの対処		◎	◎		○	○	○	◎		○
15	18	心の健康と自己実現		◎	◎		○	○	○	◎		○
16	19	交通事故の現状と要因		◎	◎		○	○	○	◎		○
17	20	交通社会における運転者の資質と責任		◎	◎		○	○	○	◎		○
18	21	安全な交通社会づくり		◎	◎		○	○	○	◎		○
19	1	私達の健康のすがた		○				○				
20	2	健康のとらえ方		○				○				
21	3	健康と意志決定・行動選択		○					○			
22	4	健康に関する環境づくり	○							○		
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断			技能・表現			知識・理解			
	現代社会と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。		現代社会と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表してい			-			現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。			
評価の方法	授業態度・ノートや提出物・出席状況で評価		授業でのグループ討議・発表、提出物で評価			-			定期考査や小テストで評価			

1年保健 授業計画

学 習 指 導 計 画					実施状況	
	月 (時数)	単元・考査等 (配置時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前期	4月	・オリエンテーション 「現代社会と健康」				
	5月	5、生活習慣病とその予防	・わが国における健康水準の向上や健康問題の変化の背景を理解し、健康的な生活習慣の確立に必要な資質や能力を養う基礎を身につける。	19、交通事故の現状と要因		
	6月	6、食事と健康		20、交通社会における運転者の資質と責任		
	7月	7、運動と健康		21、安全な交通社会づくり		
	8月	8、休養・睡眠と健康				
	9月	9、喫煙と健康				
		10、飲酒と健康				
		11、薬物乱用と健康	・わが国における感染症の現状を理解し、予防策について理解を深め、実生活に応用する。	1、私たちの健康のすがた		
後期		12、現代の感染症		2、健康のとらえ方		
		13、感染症の予防		3、健康と意思決定・行動選択		
		14、性感染症・エイズとその予防		4、健康に関する環境づくり		
		※前期試験		5、生活習慣病とその予防		
	10月	グループ学習 【範囲】	・グループ学習を通じて、単元の内容をより深く理解する。	6、食事と健康		
	11月	15、欲求と適応機制		7、運動と健康		
	12月	16、心身の相関とストレス	・グループ学習において自分達で課題を設定し、それについて調べ、その内容を授業形式で他の生徒が理解できるように発表する。	8、休養・睡眠と健康		
	1月	17、ストレスへの対処	↓	9、喫煙と健康		
後期	2月	18、心の健康と自己実現	探究とプレゼン力を高める活動を重視する。	10、飲酒と健康		
	3月	19、交通事故の現状と要因	・心の健康について学習し、高校生活における自分自身と照らしあわせながら、日常生活に生かす。	11、薬物乱用と健康		
		20、交通社会における運転者の資質と責任		12、現代の感染症		
		21、安全な交通社会づくり		13、感染症の予防		
				14、性感染症・エイズとその予防		
				・・・・・・・・・・・・・・・・		
				・		
				15、欲求と適応機制		
後期				16、心身の相関とストレス		
				17、ストレスへの対処		
				18、心の健康と自己実現		

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教 科	科 目	単位数	年次・コース				教 科 担 任				
音楽	音楽Ⅰ	2	1 年次				成田 良太				
使用教科書	教育出版 音楽Ⅰ 改訂版T u t t i			使用副教材	啓隆社 Music Note 教育出版 New Recorder Library						
科 目 の 目 標					道徳教育のねらい						
音楽の諸活動を通じて、創造的な表現の能力を伸ばし、鑑賞の能力を高めるとともに音楽に対する豊かな感性音楽を愛好する心情を養う。					音楽経験をとおして、深い美的情操と豊かな人間性を養い、円満な人格の発達をはかり、社会人としての教養を高める。						
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理能力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	歌唱(斉唱・合唱)	○		○					○		
2	器楽(リコーダー独奏・重奏)	○		○					○		
3	鑑賞	○	○		○						
4	楽典	○	○								
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18	グループワーク		○	○	○	○	◎		◎	○	○
19	課題提出		○	◎		○		○		◎	○
20	実技テスト	○	○					○	◎		
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断			技能・表現			知識・理解			
	・音楽を愛好し音楽文化を理解しているか。 ・意欲的・主体的にグループ活動を行っているか。	・感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚しているか。 ・音楽のよさや美しさを感じ取っているか。			・表現に対する自己のイメージをもっているか。 ・創造的な表現をするための技能を身に付けているか。			・多様な音楽や音楽文化のよさや楽しさを主体的に味わっているか。 ・音楽をより深く探り伝えようとしているか。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業での取組	歌唱実技テスト	器楽実技テスト	ミュージックノート	単元テスト	鑑賞レポート				
	関心・意欲・態度	◎									
	思考・判断	◎	○	○							
	技能・表現	○	◎	◎				○			
	知識・理解	○			◎	◎	◎				

音楽Ⅰ 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況		
	月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4 月	オリエンテーション 多様な声の世界	親しみやすいJ-POPの歌を，二部合唱で合わせる楽しみを味わいながら高校の音楽学習への意欲を養う。また，高校生として音楽を学ぶにあたって，音楽を様々な視点から捉え楽しむ方法について考える。	○校歌（2） ○心の瞳（2） ○故郷（2）	6 2		
	5 月	音楽の要素と組み立て 1		◆Ex.1音階や旋法（2） ○コンコーネ C Dur F Dur G Dur（3） ◆楽典（いろいろな音階や旋法）（3） ○リコーダーライブラリーlesson1～（8）	8 8		
	6 月	言葉と音楽 1ー日本語の歌と英語の歌ー		アルトリコーダー奏法の基礎	○Danny Boy（2） ○少年時代 ◆Ex.2リズム（2）		4
	7 月						
	8 月			言葉と音楽 2ーイタリア語とドイツ語の歌曲に挑戦ー	○Caro mio ben（3） ○野ばら		4
	9 月			◆楽典（拍子，記号）（1）			
後 期	1 0 月	物語と音楽のかかわりー映像における音楽の効果ー	映像作品における音楽の効果を感じ取るとともに，音楽と他の文化が互いにどのように影響をし合って発展してきたかを考える。	◆ウエスト・サイド物語（4） ○Tonight ◆My Fair Lady（4） ○一晩中踊れたら	8		
	1 1 月	舞台芸術の世界		○オペラ「魔笛」（5） ○ミュージカル「ライオンキング」（5） ○歌舞伎「勅進帳」	10 2		
	1 2 月						
	1 月	混声合唱		合唱活動に関心をもち，歌詞の内容や曲想を生かして，声部の役割を理解し，表現を工夫して合唱をする。	○夢みたものは（4） ○ひとつの朝（4） ○鴟（4）		12
	2 月						
	3 月	音楽Ⅰのまとめ		これまでの音楽学習のまとめとして器楽アンサンブルなどの発表を行う。	◆学習のまとめのワークシート ○□ 2学期に学習した楽曲		6

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教 科	科 目	単位数	年次・コース				教 科 担 任				
芸 術	美術 I	2	1 年次				佐々木 龍				
使用教科書	日本文教出版 高校生の美術 1			使用副教材		なし					
科 目 の 目 標						道徳教育のねらい					
中学校美術での学習を踏まえ、美術の幅広い活動を通して、美術を愛好する心情を育てるとともに、生涯にわたり美術を学び親しむための基礎を養うことを目標とする。						芸術を愛好し、美を探究する過程で、自然への感謝と生物に対する尊敬の念を持ち、他を思いやる心を育てる。					
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・自 己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力
1	導入・オリエンテーション			○	◎	○				○	
2	鉛筆削り	○		○		○	○			○	○
3	基礎デッサン	○	○	○		○	○	○			○
4	応用デッサン	◎	○	○		○	○	○	○		◎
5	ポスター制作	○	○	○		○	○	◎	○		○
6	美術館鑑賞		○	○	○	○	○			○	
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断			技能・表現			知識・理解		
	美術の文化を理解し、意欲的・主体的に授業に取り組んでいるか		感性や想像力を働かせて主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているか			創造的な表現に必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表しているか			美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わうことができるか		
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
			授業での取組		作品	発表		鑑賞			
	関心・意欲・態度		○			◎		○			
	思考・判断		◎		◎	◎					
	技能・表現		○		◎	○					
	知識・理解		◎		◎	○		◎			

美術Ⅰ 授業計画

授 業 計 画						実 施 状 況	
	月 (時 数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省	
前 期	4月	導入・オリエンテーション	・芸術の分野のひとつである美術についての考え方、取り組み方を理解する	・プリント、教科書による解説（１） ・鉛筆の削り方について（４）	5		
	5月	鉛筆デッサン（基礎１）	・基礎的な形状を描写するための基本的な技術を身に付ける	・立方体、円柱、球の基礎形体を鉛筆デッサンで表現する（１０）	10		
	6月		・身の回りにあるものの構造を意識して観察することを理解する				
	7月	鉛筆デッサン（基礎２）	・実際のモチーフを観察を通して理解することの重要性に気づき、基礎１で学んだ技法をもとに制作する	・実際のモチーフの色やかたちを鉛筆でデッサンで表現する（６）	10		
	8月	美術館鑑賞	・本物の絵画や彫刻に触れ、そのよさを知るとともに美術を愛する心情を育てる	・函館美術館を訪問し、学芸員の方からの解説を受け、作品を鑑賞する（２）	2		
	9月	鉛筆デッサン（応用）	・体の一部である手が持つ表情や立体としての面白さに気づき、作品を制作する	・函館美術館を訪問し、学芸員の方からの解説を受け、作品を鑑賞する（２）	8		
後 期	10月 ～3月	デザイン（防火ポスター）	・視覚伝達デザインについて学び、感性や想像力を働かせて目的や美しさから主題を生成する ・デザインは他者とのコミュニケーションであり、「伝える」にはどういう工夫が必要かを学ぶ ・配色の基礎を身に付け、効果的な表現を学ぶ ・画材の基本的な使用法から応用的な技法までを身につける ・レタリングの技法を学ぶ ・互いの作品を鑑賞し合い、感性を高め合う	・防火ポスターの意義を説明 ・「防火」という言葉から連想されることをブレンストーミングし、関連するイメージをふくらませる ・色相環について学び、配色の基礎を学習する ・アイディアを多く出させ、安易にデザインを決定させずじっくりと構想を深める ・下描きの上、彩色する ・レタリングの技法について学び、工夫してより効果的な表現を理解する ・鑑賞の機会を設け、互いの作品のよさを認め合い、面白さに気づく	35		

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教 科	科 目	単位数	年次・コース				教 科 担 任				
芸 術	書道Ⅰ	2	1 年次				鈴 木 孝 徳				
使用教科書	光村図書 書Ⅰ			使用副教材	プリント書道（教科担任作成教科書準拠）						
科 目 の 目 標							道徳教育のねらい				
書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てると共に、感性を豊かにし、書写能力と芸術性を探究することを目標とする。							芸術を愛好し、美を探究する過程で、自然への感謝と生物に対する尊敬の念を持ち、他を思いやる心を育てる。				
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理能力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	導入・基本姿勢・基本用筆法	○			○						○
2	楷書	○		○			○				○
3	行書	○	○	○			○				○
4	隷書	○	○	○			○		○		○
5	かな	○	○	○			○				○
6	漢字かな交じり	○	○	○		○		○	○		○
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18	探究心プリント	○	○	○		○	○	○	○		○
19	合評会	○	○	○	○	○	○		○	○	○
20	展覧会レポート課題	○	○	○		○	○		○		○
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断			技能・表現			知識・理解			
	技術の向上・表現活動への探究心、鑑賞活動への積極的参加	法帖の解釈、ことばの解釈 作品批評			用筆法、構成力、生命感			書道史、書道用語、書道一般常識			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		臨書	創作	作品	探究心プリント	合評会	展覧会レポート				
	関心・意欲・態度			◎	○	○	○				
	思考・判断	◎	◎	○	◎	◎	◎				
	技能・表現	○	◎	◎		○					
	知識・理解	◎	○	○	◎	○	○				

書道Ⅰ 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
	月 (時 数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前 期	4月	導入 基礎練習	姿勢、筆の持ち方、運腕、運筆、用筆	姿勢、筆の持ち方、運腕、運筆 用筆（6）	6	
	5月	楷書	牛楸造像記	楷書基礎（2）	2	
	6月			北魏楷書、骨力、直線力、剛腕（6） 合評会（鑑賞・批評）（2）	8	
	7月		顔氏家廟碑	顔法、筆力、向勢、上下動（6）	8	
	8月			合評会（鑑賞・批評）（2）		
	9月		孔氏廟堂碑	初唐楷書、整齊美、バランス（6） 合評会（鑑賞・批評）（2）	8	
後 期	10月					
	11月	行書	蘭亭叙	行書、流動美、太細大小潤渴変化（8） 合評会（鑑賞・批評）（2）	10	
	12月	隸書	張遷碑	隸書、波磔、重量感（6） 隸書基礎	8 2	
	1月	かな 基礎練習		合評会（鑑賞・批評）（2） 成立、元字、連綿、散らし書き（6）	12	
	2月		高野切第三種	平安かな、行の流れ、響き（6）		
	3月	漢字かな交じりの書	近代詩文書	現代書研究（6）	6	

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教 科	科 目	単位数	年次・コース			教 科 担 任					
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	1 年次			菊谷研司・松尾啓史・紙田清					
使用教科書	Revised LANDMARK English CommunicationⅠ（啓林館）			使用副教材	Revised LANDMARK English CommunicationⅠ WORKBOOK Standard（啓林館）						
科 目 の 目 標						道徳教育のねらい					
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見等を多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。						①言語活動を通じ人間との関わりを築き互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力やコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度を養う。 ②各単元の題材を通じ、世の中の様々な事象に関心を持ち、積極的に関わる姿勢を養う。					
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理能力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	定期考査	○						○			
2	パフォーマンステスト（スピーキング）		○				○		○	○	○
3	パフォーマンステスト（ライティング）		○				○		○		○
4	授業(リスニング・大意把握)	○	○	○	○						
5	授業(リーディング・情報整理)		○		○						
6	授業(リプロダクション・サマリー)				○		○		○		
7	授業(ペアワーク・グループワーク)				○		○		○	○	○
8	多読		○	○				○		○	○
9	提出物	○		○		○				○	
#	課題確認テスト	○				○		○			
#	小テスト	○				○		○			
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		外国語表現の能力			外国語理解の能力			言語や文化についての知識・理解		
	意欲的に授業に臨み、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。		テーマについて自分の考えや意見を英語で話したり書いたりして、表現できるか。			英文を聞いたり読んだりすることで、主題や要点を把握したり、他人の考えや意見を英語で理解することが出来るか。			文法や語彙、発音等に関する知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解できたか。		
評価の方法	課題の取り組み状況、定期考査の英作文問題、授業内のスピーキング活動を通じて評価する。		定期考査の英作文問題、授業内のライティング活動、授業内で行うスピーキングテストを通じて評価する。			定期考査の初見の英文を使った読解問題、授業内で行うライティング活動を通じて評価する。			授業内で行う小テスト、課題確認テスト、定期考査の文法問題や語彙問題などを通じて評価する。		

コミュニケーション英語Ⅰ 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況		
前 期	4(9)	オリエンテーション(1) Lesson1 Whan Can Blood Type Tell Us? (8)	<題材>血液型に対する日本人と外国人の関心の違いを理解する。 <文法>動名詞, 不定詞	各Lesson原則、以下のような構成で進める。 ・ Pre reading (全体の概要をつかむ) (1) ・ While reading (Lesson 全体を前半・後半に分け、語彙理解・内容確認・精読・音読などを行い、細部を理解し、理解したことを習得する) (2×2) ・ Post reading (文法のおさらい、学習内容を活用したアウトプット活動などに取り組み、学習内容の定着を図る) (4～5)		前 期	
	5(10)	Lesson2 Curry Travels around the World (10)	<題材>カレーのルーツと語源、歴史を理解する。 <文法>分詞の後置修飾, 現在完了形				
	6(11)	中間考査 (1) Lesson3 School Uniforms(10)	<題材>日本や諸外国の制服事情を理解する。 <文法>関係代名詞, S+V+(O+) 疑問詞。				
	7(5)	Lesson4 Gorillas and Humans (10)	<題材>ゴリラと人間の類似性を理解する。 <文法>seemの用法, 現在完了進行形				
	8(5)						
	9(11)	Lesson5"gr8" or "great"?(10) 期末考査 (1)	<題材>英語圏の若者が用いる新種の言語について理解する <文法>It ～ thatの形式主語構文, 知覚動詞+O+動詞原形/現在分詞				
後 期	10(13)	Lesson6 Biodiesel Adventure (10) Lesson7 Eco-tour on Yakushima(3)	L6<題材>バイオ燃料の仕組みと周生さんの旅を理解する。 <文法>過去完了形, 使役動詞+O+動詞の原形。 L7<題材>世界遺産屋久島とエコツアーについて理解する。			後 期	
	11(12)	Lesson7つづき(7) Lesson8 Mariko Nagai Super Interpreter (5)	<文法>前置詞+関係代名詞, 関係副詞。 L8<題材>長井さんの卓越した仕事ぶりや通訳者の過酷な仕事について理解する。				
	12(6)	Lesson8つづき (4) 中間考査 (1) GTEC(3)	<文法>関係代名詞what, 分詞構文について理解する。 L9<題材>・宇宙エレベーターの仕組みや実現性について理解する。				
	1(6)	Lesson9 Space Elevator(4)	<文法>仮定法過去, 倍数表現				
	2(10)	Lesson9つづき(6) Lesson10 Frenship over Time (3) 期末考査 (1)	L10<題材>・トルコ航空機による日本人救出劇とエルトゥールル号の物語を理解する。 <文法>関係代名詞の非限定用法, 仮定法過去完了。				
	3(7)	Lesson 10(7)					

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教 科	科 目	単位数	年次・コース				教 科 担 任				
外国語	英語表現Ⅰ	2	1 年次				菊谷研司 ・ 松尾啓史 ・ 紙田清				
使用教科書	Revised Vision Quest English ExpressionⅠ Standard (啓林館)				使用副教材	総合英語 FACT BOOK これからの英文法 (桐原書店) Vision Quest English ExpressionⅠ WORKBOOK (啓林館)					
科 目 の 目 標						道徳教育のねらい					
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。						言語活動を通じ人間との関わりを築き互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力やコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度を養う。					
学習活動内容		市函DP (本校で身に付けさせたい10の資質・能力)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的学習力	傾聴力	自己理解・自己管理力	他者理解力	計画実行力	発信・表現力	ストレスコントロール力	実践力
1	Build Up/Practice (文法・『学び合い』)	◎	○	○	○	○	○	○			
2	Model Conversation (会話)				○				◎		
3	Expressing (会話・作文)						○		◎		
4	Use it! (会話・作文)						○		◎		
5	課題提出	○						◎			
6	考查	◎						○	◎		
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力			外国語理解の能力			言語や文化についての知識・理解			
	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。			外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。			外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。			
評価の方法	課題の取り組み状況、定期 考査の英作文問題、授業内の スピーキング・ライティング 活動を通じて評価する。	定期考査の英作文問題、授 業内のライティング活動、授 業内で行うスピーキングテス トを通じて評価する。			授業内で行うスピーキン グテストを通じて評価す る。			授業内で行う小テストや、 定期考査の文法問題、英訳問 題などを通じ評価する。			

英語表現Ⅰ 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
	月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前 月	4月	Lesson1 Let's have lunch together sometime. (5)	紹介：Model Conversationで自己紹介を含む、初対面での自然な会話の流れを学ぶ。Expressingでは自己紹介や他者紹介ができる。	文の種類：肯定文・否定文・さまざまな疑問文や命令文を適切に作り、それに応答することができる。感嘆文で驚きや感動を表すことができる。		
	5月	Lesson2 Are you interested in Japanese anime? (5)	興味・関心：Model Conversationで興味や関心を表す表現を多く学ぶ。Expressingでは自らの興味・関心を紹介し、感想やおすすめの作品を伝える。	文型と動詞：5つの文型の構造を理解し、単文を正確に作ることができる。また、紛らわしい自動詞と他動詞の使い分けができる。		
		Lesson3 I'm going to Okinawa with my family. (5)	旅行：Model Conversationで予定を尋ねたり伝えたりする会話を学び、Expressingでは旅行のプランを作ってペアで話したり発表したりできる。	時制：基本時制の概念をイメージとして把握し、伝えたいことを適切な時制・進行形で発話できる。		
	6月	前期中間考査 (1)				
		Lesson4 I hear you've joined the soccer team. (6)	スポーツ：Model Conversationでサッカーについての会話からスポーツに関する表現を学ぶ。Expressingでスポーツ活動の経験を尋ねたり伝えたりできる。	完了形：現在・過去・未来完了形の概念をイメージで把握し、現在形や過去形と区別する。それぞれの用法と共に使われる語句を理解し、適切に文を作る。		
	7月	Lesson5 Can you tell me what ammitsu is like? (5)	食事：Model Conversationでレストランでの会話から特有の表現を学ぶ。Expressingではレストランでの食事の注文ができる。	助動詞：助動詞それぞれの意味や用法を学び、適切に使い分けて話者の気持ちや判断を表すことができる。		
後 月	8月 9月	前期末考査 (1)				
		Lesson6 I'm so glad I can see the Sydney Opera House. (6)	観光：Model Conversationで観光地での案内人との会話の流れを学び、名所について説明を聞いて感想を表せる。Expressingの活動で観光地の案内ができる。	受動態：受動態のさまざまな文の作り方を学び、必要に応じて使うことができる。感情表現など、日本語と英語の違いに気を付けて表現することができる。		
	10月	Lesson7 It's very nice of you to say so. (5)	交際：Model Conversationでパーティーに招待された時やプレゼントを渡す時の会話の流れを学ぶ。Expressingの活動でプレゼントへのお礼を伝えることができる。	不定詞：不定詞のさまざまな用法を学び、意味上のS+Vを含む文を作ることができる。慣用表現を用いて伝えたいことを1文で表すことができる。		
		Lesson8 How about going to see a musical? (5)	娯楽：Model Conversationで娯楽への誘い方を学ぶ。Expressingでは趣味について話し合ったり、友人を遊びに誘うメールを書いたりできる。	動名詞：動名詞のさまざまな用法を学び、動名詞句を用いて多様な文を作ることができる。		
	11月	Lesson9 I'm for school uniforms. (6)	ルール：Model Conversationで学校の制服について賛成・反対意見を述べ合う会話を学ぶ。Expressingでは制服について自分たちの意見を述べるができる。	分詞：名詞を修飾する用法、補語になる用法を使うことができる。分詞構文を適切に用いて表現することができる。		
	12月	後期中間考査／GTEC (4)				
1 月		Lesson10 How do you spend Christmas? (5)	文化：Model Conversationで日米の冬の行事について紹介し、文化の違いについての会話を学ぶ。Expressingでは日本文化や行事の紹介ができる。	関係詞：関係詞を用いた複文を作り、語句を限定したり補足説明を加えたりできる。また、複合関係詞を用いて譲歩の意味を表すことができる。		
		Lesson11 Did you watch the debate on TV last night? (5)	社会問題：Model Conversationで読書の必要性についての会話を学ぶ。Expressingでは日本の出生率の低下について自分の意見を表明できる。	比較：複数のものを比較することで、物事の状態をわかりやすく伝えることができる。		
	2月	後期末考査 (1)				
2 月		Lesson12 I wish my parents were more understanding. (5)	悩み事：Model Conversationで悩み事についての会話におけるアドバイスの仕方を学ぶ。Expressingで悩んでいる人への助言や提案ができる。	仮定法：仮定法を用いて事実と違うことや実際には起こり得ないことを述べるができる。		
	3月					

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教 科	科 目	単位数	年次・コース				教 科 担 任				
家庭	家庭基礎	2	1年次				黒澤比呂子				
使用教科書	実教出版 新家庭基礎 2 1				使用副教材	実教出版 ニュースライブラリー家庭科2019					
科 目 の 目 標						道徳教育のねらい					
人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。						生活文化の基本的知識・技能を身につけ、価値観の多様化が進む社会において主体的に判断し行動する力を育む。また、生活行動が社会に与える影響を理解し、社会の一員として継続可能な社会のあり方を考える能力を育む。					
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・自 己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力
1	「自立する」とは？	○				○					
2	選んで着る（被服実習含む）	○	○								
3	楽しく安全に食べる（調理実習含む）	○	○								
4	多様化した社会を生きる	○	○								
5	消費社会を生きる	○	○								
6	明日に向けて	○				○					
7	被服実習	○				○		○			
8	調理実習	○				○		○			
9	グループワーク		○		○	○	○				
10	実技テスト	○				○		○			
11	定期考査	○	○					○	○		
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断・表現			技能		知識・理解			
	・授業活動において積極的姿勢で参加・活動しているか。 ・授業の準備や課題提出が十分か。		・授業で学んだ知識をもとに現代生活の諸問題や課題を見つけ、論理的に考え、選択し、それを表現することができるか。			・調理実習や被服作製を通して、その技術を習得しているか。		・人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を理解しているか。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業での取組	課題への取組	課題の完成度	実習・実技テスト	定期考査					
	関心・意欲・態度	◎	◎	○							
	思考・判断・表現	○	◎	○		◎					
	技能			◎	◎						
	知識・理解	○	○		○	◎					

家庭基礎 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
	月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前期	4月	「自立する」とは？ (4時間)	・青年期の課題を理解し、「4つの自立」の重要性を学ぶ。	・生き方の多様化と自立(2) ・ライフデザイン(生活設計)(2)		
	4月 5月 6月	選んで着る (18時間)	・健康で快適な衣生活を営むために必要な被服材料、被服管理などの基礎的・基本的な知識を学ぶ。 ・衣生活と消費行動や環境との関わりを学び、課題について考える。 ・被服実習を通してミシンの使い方と運針を身につける。	・衣服の機能(2) ・衣服表示の見方(2) ・衣服の材料(2) ・衣服の管理(洗濯と洗剤)(2) ・被服実習 (基礎縫い刺し子布巾の作成)(8) ・ミシンの操作(実技テスト)(2)		
	6月 7月 8月 9月	楽しく安全に食べる (20時間)	・健康で安全な食生活を営むために必要な栄養、食品、調理および食品衛生などの基礎的・基本的な知識と技術を学ぶ。 ・食品の特徴や安全性について学び、よりよい食生活を選択する力を備える。 ・調理実習を通して、調理技術の基礎基本を身につける。	・食生活のありかた(1) ・栄養素のはたらき(3) ・食品の特性(2) ・食品の選択と取扱い(1) ・食品の安全性(1) ・食事の計画と調理実習(12) (調理実習は9月～11月に実施)		
後期	10月 11月	多様化した社会を生きる (8時間)	・家族や家庭、男女の社会参加について、社会のあり方を考える。 ・生活時間や労働について考えを深め、社会システムのあり方を探る。	・社会の変化と家族(2) ・家族をめぐる法律(2) ・多様な生き方と選択(2) ・生活時間と仕事(2)		
	12月 1月 2月	消費社会を生きる (12時間)	・経済社会のしくみを理解し、生活者の視点でお金を管理する基礎知識を学ぶ。 ・自立した消費者をめざし、よりよい消費のあり方、消費者問題とその解決について考えを深める。	・経済社会と消費生活(1) ・収入と支出の管理(3) ・消費者信用と家計管理(2) ・電子商取引と問題商法(3) ・消費者救済のしくみ(3)		
	2月 3月	明日に向けて (8時間)	・高校卒業後の自立を目指して、生活教養を深める。	・食事のマナー(2) ・一人暮らしの部屋探し(2) ・刺し子布巾の完成(2) ・日本の着物文化(2)		

2019年度 市立函館高等学校 シラバス

教 科	科 目	単位数	年次・コース				教 科 担 任				
情報	社会と情報	2	1 年次				本 堂 健 一				
使用教科書						使用副教材					
	数研出版 改訂版 高等学校 社会と情報										
科 目 の 目 標						道徳教育のねらい					
情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。						社会に生きていくうえの基礎となる善悪の判断 力や主体的な態度を情報倫理を通して育てる。情報社会の特性やネットワークの特性の理解をすすめ、自分自身での確かな判断を					
学習活動内容		市函 DP（本校で身に付けさせたい 10 の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・自 己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力
1	情報源と情報の検証		○								
2	情報の表現・伝達と発信	○	○								
3	アナログとデジタル	○	○								○
4	インターネットの活用	○	○								
5	情報社会が人に及ぼす影響	○									
6	セキュリティ対策のための情報技術	○	○								○
7	知的財産権	○	○								
8	コンピュータの構成	○	○								
9	デジタル情報の表現										
10	プレゼン				○	○	○	○	○	○	
11	通信とその進展	○									
12	コンピュータネットワーク	○	○						○		
13	情報の伝達手段と表現形式		○						○		○
14	通信の信頼性・ I P アドレス・ドメイン	○		○							
15	w w w の仕組みと U R L	○		○							
16	問題解決のプロセス		○	○				○			○
17	データの分析		○	○				○			○
18	グループワーク			○	◎	◎	◎		○	○	
19	課題提出			○				○	○		◎
20											
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断			技能・表現		知識・理解			
	情報や情報社会に関心を持ち、身の回りの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応する。		情報や情報社会における問題を解決するために、情報に関する科学的な考え方をいかし情報モラルを踏まえて、思考を深めている。			情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。		情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		授業での取組		課題への取組		小テスト		レポートへの取組			
	関心・意欲・態度	○		○							
	思考・判断	◎				◎		◎			
	技能・表現	○		◎				◎			
	知識・理解	○		◎		◎					

社会と情報 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
	月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前 期	4	オリエンテーション 序編 情報とメディア 1章 情報とは	情報の収集、評価、判断が常に身近で行われていることを再認識させ、情報の受信時に配慮すべき事項を理解させる。	情報源と情報の検証 1 情報の表現・伝達と発信 1 アナログとデジタル 2		
	5	2章 メディアとは 3章 情報のデジタル化 4章 インターネットの活用				
	6	1編 1章 情報社会の光と影 2章 情報セキュリティの確保 3章 情報社会における法と個人の責任		情報社会が人に及ぼす影響 5 セキュリティ対策のための情報技術 5 知的財産権 5		
	8	2編 1章 コンピュータの仕組み		コンピュータの構成 3		
	9	2章 情報のデジタル表現 3章 情報の表現と伝達 4章 プレゼンとは		デジタル情報の表現 5 データの圧縮 2 情報の発信とメディア 4 プレゼンとは 5		
	10	3編 1章 コミュニケーション手段 2章 インターネットの仕組み	古代からの技術的な進歩を概観し、コミュニケーション手段の発達について理解させる。 情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルについて理解させる。 IPアドレス、ドメイン名、URLとDNSによるインターネットでのweb閲覧の原理を理解させる。 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して、問題を解決する方法を習得する。 数学的なデータ分析の基礎を理解し、表計算ソフトウェアを使って簡単な数学的データ処理や分析を行う。	通信とその進展 3 マスメッセージ 4 コンピュータネットワーク 2 情報の伝達手段と表現形式 2 パケット通信 1 通信の信頼性 1 IPアドレスとドメイン名 1 WWWの仕組みとURL 1 電子メールの送受信の仕組み 1		
	1	4編 1章 情報システムと人間 2章 問題解決		問題解決のプロセス 6 データの分析 6 情報技術の発達と情報の爆発 1 ユビキタスコンピューティング 1 ユーザビリティとアクセシビリティ 1 ユニバーサルデザイン 1		
	2					
	3					
後 期						

2019年度 市立函館高等学校 シラバス (函館学)

教 科	科 目	単位数	年次・コース				教 科 担 任							
総合	函館学	1	1 年次・選択				1 年次教員・外部講師							
使用教科書						使用副教材								
科 目 の 目 標							道徳教育のねらい							
国際性と進取の精神を持つ郷土函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について学ぶことで、豊かな教養を身に付けるとともに、社会における自己の役割を再認識し、地域の振興に向けて、自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決する資質や態度を育てる。							国際性と進取の精神を持つ郷土函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について学ぶことで、郷土を愛し、郷土の振興のために尽力する態度を養う。							
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・自己 管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力			
1	函館学ガイダンス	◎			○									
2	函館学基調講演	○	○		◎									
3	地域探究学習（学校外の学修）		○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎			
4	函館学講座		◎	◎	◎	○	○		◎					
5	函館学振り返り講演	○			◎									
6	函館学の振り返り・まとめ	○				◎								
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断			技能・表現		知識・理解						
	郷土 函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について主体的に学んでいる。		地域の振興に向けて、地域課題を見つけ、よりよく解決する資質を身につけている。			地域課題の解決に向けて、グループワークなどでアイディアを出し合い考察し、その結果を他者にわかりやすく伝えている。		地域と自分との関わりの中、課題解決に向けた取り組みや探究活動により、自己の在り方生き方を考えている。						
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。													
			授業への取り組み		課題への取り組み		グループワーク		自己評価・相互評価		発表内容		作品（レポート等）	
	関心・意欲・態度		◎		◎				◎				◎	
	思考・判断				◎		○		◎		◎			
	技能・表現				○		◎				◎		◎	
知識・理解		○		◎						◎		◎		

函館学 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
	月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前 期	4	函館学ガイダンス（1）	函館学の意義や目標を理解させるとともに、生徒自身が自分の興味関心に従って自ら学習計画を立てられることをねらいとする。	・函館学ガイダンス（1）		
	5	函館学基調講演（3）	郷土函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について総合的に学ぶ。	・函館学基調講演（3）		
	6	地域探究学習（14） (学校外の学修)	選択した事業所において、地域のことを理解したり・研究したり、地域で奉仕活動したり、地域の人と触れあう機会の中で、伝統や文化に立脚した幅広い視野を持ち、志高く未来を創りだしていくために必要な資質・能力の育成を図る。	・地域探究学習（14） (学校外の学修)		
	9					
後 期	10	函館学講座（7）	函館市役所出前講義及び民間の団体等の協力を得て函館に関わる講座を2回開講し、自分の興味関心に応じ、任意の講座を2つ選択し受講させる。学び得たことをレポートにまとめさせる。	・函館学講座（7）		
	11	函館学講座（7）		・函館学講座（7）		
	12					
	1	函館学振り返り講演（2）	郷土函館・道南圏の文学・歴史・文化・産業・地誌・人物・地域課題等について総合的に学んだことを振り返る。	・函館学振り返り講演（2）		
	2					
	3	函館学の振り返り・まとめ（1）		・函館学の振り返り・まとめ（1）		

2019年度 市立函館高等学校 シラバス (総合的な探究の時間)

教 科		科 目	単位数	年次・コース			教 科 担 任					
総合		総合的な探究の時間	1	1年次			1 年次教員					
使用教科書					使用副教材							
科 目 の 目 標							道徳教育のねらい					
自己と向き合い、よりよい生活や社会の在り方を意識し、その実現に向けて自ら考え行動する態度を育てる。（探究の意義や価値の理解） また、情報や知識の活用法を学び、論理的に思考する能力の育成をはかり、言語により正しく表現する能力を高める。（探究的思考の手法と言語表現法の修得） さらに、他者との意見の共有をはかり、物事を多角的視点でとらえることの重要性を理解し、互いを認め合いながら協働する能力を育む。（他者理解と協働）							進路学習活動を通して自己理解を深め、主体的に目標に向かう意欲と態度を育む。 また、他者理解や他者との協働意識を深める中で、価値観の多様化が進む現代社会において主体的に判断し行動する能力を育てる。					
学習活動内容			市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
			1 基礎力	2 思考力	3 主体的 学習力	4 傾聴力	5 自己理解・自己 管理能力	6 他者 理解力	7 計画 実行力	8 発信・ 表現力	9 ストレス コントロール力	10 実践力
1	学問系統研究		◎		◎		◎	○	○			
2	講演会		○	◎	○	◎						
3	出前講義			◎		◎	◎					
4	課題研究発表会見学					◎		◎				
5	未来大訪問		○		◎	◎		◎				
6	小論文		◎	◎	◎	◎	○		○	○		
7	探究・函館学まとめ		○				◎		◎			
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
評価の観点	関心・意欲・態度		知識・理解・技能			思考・判断		表現・発表				
	自己と向き合い、社会に目を向け、今後の在り方について意識を高めている。 探究的活動において、探究の意義や価値を理解して取り組んでいる。		講演会や講義、大学の見学において、そのねらいと内容を理解している。 探究的活動において、課題を理解し、情報や知識の整理・分析方法を身につけている。また、情報に関わるルールを守って正しく活用している。			自己理解を深め、自らの将来に向けて必要な情報を活用し、考えている。 探究課題について、根拠に基づき、多角的視点を持って自らの考えをまとめている。		探究的活動において、自分の考えを小論文で表現できている。 他者の考えに触れ、価値観の違いや多様性を受け入れ認めている。				
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。											
		授業への取り組み	各種レポート	各種ワークシート	小論文	グループワーク	課題提出状況					
	関心・意欲・態度	◎	○	○	○		◎					
	知識・理解		◎	◎								
	思考・判断		◎		◎							
	表現・発表			◎	◎	◎	○					

総合的な探究の時間 授業計画

授 業 計 画					実 施 状 況	
	月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省
前 期	4 5	学問系統研究 (8)	・ 社会人講話や学問調べ学習を通じて自己理解を深め、広い視野で進路を考える。 ・ 資料の活用法や情報の取捨選択ができる力を身につけ、主体的に進路を考える力を付ける。	・ オリエンテーション (1) ・ 社会人講話 (2) ・ 学問調べⅠ・Ⅱ・Ⅲ (3) ・ 科目履修 (1) ・ 調べ学習発表会 (1)		
	6	講演会 (3) 出前講義 (3)	・ 社会の第一線で活躍する方の講演を聴き、視野を広げ、多様な生き方があることを知る。 ・ 大学講師や職業人による専門分野の講義を受け、自分の興味関心を深め将来について考える。	・ 講演会 (3) ・ 出前講義 (3)		
	9	課題研究発表会見学 (1)	・ 3年次生の発表を見学し、本校の「課題研究」の在り方を理解する。 ・ 発表内容を聴き内容を理解する力と自分自身の学びにつなげる力を付ける。	課題研究発表会見学 (1)		
後 期	10	未来大訪問 (4)	・ 未来大を訪問し、大学とは何かを学ぶ。 ・ 未来大の特徴であるプロジェクト学習を見学し説明を聞くことで、大学における研究活動の意義を学ぶ。	・ 未来大訪問 (4)		
	10 11 12 1 2	小論文 (15)	・ 探究的学習のプロセス (課題の設定、情報整理・分析・まとめと表現) とその手法を理解し、学びを深める力を付ける。 ・ 小論文の書き方を学び自らの考えを論文の形にまとめることで、論理的な思考や表現の力を付ける。	・ 課題の設定Ⅰ・Ⅱ (3) ・ 論の構築ⅠⅡ (3) ・ 小論文記述指導Ⅰ～Ⅳ (6) ・ 小論文クラス発表会Ⅰ・Ⅱ (2) ・ 小論文年次発表会 (1)		
	3	ポートフォリオ (1)	・ 総合的な探究の時間の学習内容を振り返り、学習の成果をeポートフォリオに記録する。	ポートフォリオ (1)		

2019年度 市立函館高等学校 シラバス (函館学)

教 科	科 目	単位数	年次・コース				教 科 担 任				
総合	函館学	0～2	全年次・選択				総学部担当教員・外部講師				
使用教科書						使用副教材					
科 目 の 目 標							道徳教育のねらい				
国際性と進取の精神を持つ郷土函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について学ぶことで、豊かな教養を身に付けるとともに、社会における自己の役割を再認識し、地域の振興に向けて、自ら課題を見つけ、よりよく問題を解決する資質や態度を育てる。							国際性と進取の精神を持つ郷土函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について学ぶことで、郷土を愛し、郷土の振興のために尽力する態度を養う。				
学習活動内容		市函DP（本校で身に付けさせたい10の資質・能力）									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		基礎力	思考力	主体的 学習力	傾聴力	自己理解・自 己管理能力	他者 理解力	計画 実行力	発信・ 表現力	ストレス コントロール力	実践力
1	外部公開講座受講	◎	◎	◎	◎				○		◎
2	はこだて検定	◎	◎	◎				○			
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
評価の観点	関心・意欲・態度		思考・判断			技能・表現		知識・理解			
	郷土 函館・道南圏の歴史・文化・産業・自然・人物・地域課題等について主体的に学んでいる。		地域課題に係わる活動に関心を持ち、公開講座やボランティア活動などへの参加を通じて、よりよく解決する資質を身につけている。			地域課題の解決に向けた活動などにより、自分の学びを他者にわかりやすく伝えることができる。		地域と自分との関わりの中、課題解決に向けた活動などにより、自己の在り方生き方を考えることができる。			
評価の方法	次の資料をもとに観点別評価によって総合的に評価する。										
		講座や活動への取り組み		地域課題への取り組み		報告レポート					
	関心・意欲・態度		◎	◎	◎						
	思考・判断		◎		◎						
	技能・表現				◎						
	知識・理解			◎	◎						

函館学（選択） 平成30年度 開講講座等実績

授 業 計 画					実 施 状 況	
	月 (時数)	開講講座	学習のねらい	学習内容	単元 実施 時数	実施反省
前 期	4	第1回函館てらこや	郷土函館・道南圏の「歴史」、「文化」、「産業」、「自然」、「人物」、「地域課題」等について総合的に学ぶ。	てらこや 地域子ども達に学び・遊びの場を提供し、保護者・大人のボランティア・学生ボランティアが交流し地域を盛り上げていこうという活動を通じて、コミュニティのあり方や地域全体で行う子育て・教育のあり方について考える。 第1回 CCH合同公開講座 「温故知新 先人の実践を探る」		
	5	第2回函館てらこや		第2回 郷土の歴史講座 「箱館戦争と碧血碑百五十回忌、追悼・記念講演会」		
	6	第3回函館てらこや		第2回 CCH合同公開講座 「ロシア人から見た函館と石川啄木、与謝野晶子の短歌」		
		第1回 CCH合同公開講座 『函館学2018』		CCH加盟校主催『函館学』講座 「海の巨大な渦：海の中にも高気圧と低気圧がある」		
		第2回 郷土の歴史講座		CCH加盟校主催『函館学』講座 「凍る海のプランクトンと環境変動」		
	7	第4回函館てらこや		文化体験学習ツアー 北前船が運んだ商業や文化を体験		
		第2回 CCH合同公開講座 『函館学2018』				
	8	CCH加盟校主催『函館学』講座 第5回函館てらこや				
	9	CCH加盟校主催『函館学』講座 第6回函館てらこや 文化体験学習ツアー				
後 期	10	未来大市民公開講座 第7回函館てらこや		未来大市民公開講座 「使いやすさの認知心理学」(10/6) 「文字認識から自動運転まで 一画像認識入門」(10/13) 第6・7回 郷土の歴史講座 「函館は文化の十字路口 ～様々な宗教の中で育まれてきた街～」(10/13) 「公家・清水谷公考の”青雲の志”とその挫折 ―箱館裁判所・箱館府創設と箱館戦争の狭間―」(10/27)		
		第6・7回 郷土の歴史講座		学生政策アイデアコンテスト 高校生大学生に「函館の街を活性化させる、元気にするための政策」を学生限定でアイデアを募集するコンテスト 第13回函館歴史文化観光検定		
	11	はこだて学生政策アイデアコンテスト はこだて検定 第8回函館てらこや		第3回 合同公開講座 『函館学2018』 日本中世の貨幣をめぐる諸問題		
	12	第3回 合同公開講座 『函館学2018』				
		第9回函館てらこや				
	1	第10回函館てらこや				
	2	第11回函館てらこや				
	3	第12回函館てらこや				

※函館学（選択）は『函館学ニュース』で随時案内するため、年度により開講講座が異なることから、前年度の実施実績とする。